

令和8年度第1回一関市観光審議会 会議録

- 1 会議名 令和8年度第1回一関市観光審議会
- 2 開催日時 令和8年6月23日（火）午後2時から午後3時40分まで
- 3 開催場所 一関保健センター会議室2
- 4 出席者
 - (1) 委員 佐々木賢治委員、船山賢治委員、千葉セツ子委員、千葉敏則委員、松本数馬委員、東本貴史委員、大澤亜季乃委員、三浦梨乃委員、熊谷由美子委員
 - ※欠席者 丹野麻琴委員
 - (2) 事務局 小野寺正寿商工観光部長、木村剛商工観光部次長兼観光物産課長、佐々木浩二観光物産課課長補佐兼観光物産係長、中田善久観光物産課課長補佐、須藤美由紀商工観光部次長兼産業企画課長、松岡敏徳産業企画課商工企画係長、菊池朋映産業企画課商工企画係主事
- 5 議題
 - (1) 一関市観光振興計画の総括と推進状況について
 - (2) 次期（R 9～13）一関市観光振興計画の策定スケジュールについて
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 2人（うち報道機関2人）
- 8 市長挨拶

一関市長 佐藤 善仁

来年度からの5か年の新しい次期観光振興計画の策定に当たり、皆様方のお力添えをいただくことになります。また、皆様方には日頃から一関市の観光振興に様々なお力添えを頂戴しております。改めまして感謝を申し上げたいと存じます。

皆様、日常の業務を通じ、それぞれの立場・立ち位置から、この「観光」といったものに対して携わっておられますので、見識や、お考えがあることと思っております。それから、私なりに、次の観光振興計画の中で、明らかにしていかななくてはいけないと思ったこともございます。

まず、現状から整理をしていきますと、経験的に言えることは、観光というのは非常に裾野の広い産業であるということです。産業、農業、漁業もあれば、観光、工業、商業もあります。観光というのは非常に色々な関連する分野が多いです。

何となく一見して、どこか観光地に来て、見て、お土産を買うだけかと思われがちで

すけれども、決してそうではないものが多いです。その点は観光の強みでもありますし、一方でその強みを間違えないようにしなくてはいけないという難しさもあると思っております。

もう一つは、現在の状況です。新型コロナウイルス感染症流行前、あの頃を思い出しますと、「インバウンド」という言葉が出てきて、外国人の観光客をどのように受け入れていくか、日本中の自治体が、観光の現場が、外国語の表記やおもてなしというものを整理し、どのように外国人旅行客を受け入れ、増やしていくかに知恵を絞っていました。

そこに新型コロナウイルス感染症が発生し、何もかもストップし、次第に新型コロナウイルス感染症への感染者数が収まってきました。現在の一関で申し上げれば、国内旅行はそれほどではないのですが、インバウンドだけは伸びているわけです。

ただ問題は、このインバウンドが、新型コロナウイルス感染症前にやってきたことの努力の成果として来ているのかというと、決してそうではないのだろうと思っています。たまたま、今の状況がありまして、その辺をどうなのかというところを、皆様に解き明かしていただければありがたいと思っていました。

円安や新型コロナウイルス感染症が落ち着いた影響もあり、インバウンドは確かに多いです。

日本は、絶好調なのですけれども、日本人を相手にした観光が底上げになっているかという決してそうでもないところがあります。

その上で、この観光振興計画の中で答えを出さなくてはいけないと思うのですが、クリアしなくてはいけないことは、一関市での観光とは何をもってして、総合戦略の一番上に君臨する観光はなんだろうという答えだと思っています。

観光を直訳すれば「sightseeing」で、昔はお伊勢参りに始まって、お寺さん、神社仏閣を見てもらい、美味しいものを食べ、温泉に浸かって、ということだったのでしょうけれども、今は決して観光はそういうものではありません。

皆様方は特によく御存知だと思いますが、そうした一関の観光というのを、どのように形づくっていくか。たまたまの現象でインバウンドが多いということではなく、きちんと取り組んだ結果として、観光が盛り上がっていくようなものを描いていかななくてはならない、それが計画作りだと思っております。その答えを皆さんにもぜひ御一緒に出していただき、そうした審議会になっていければと思っております。

お忙しいところお越しいただきましたことに、改めまして御礼を申し上げます、挨拶いたします。よろしく願いいたします。

9 会長及び副会長の選出

会長を佐々木賢治委員、副委員長を船山賢治委員とする案を事務局から提案し承認

された。

10 議 題

(1) 一関市観光振興計画の総括と推進状況について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委 員 今回の観光振興計画の立案に当たって非常に危機感を感じており、課題もある。是非一緒に取り組んでいければと思う。

DMOの更新に関わるものになっていて、2028年に更新時期となる。それに当たって観光庁でも、様々な制度が変わっていて、かなり細かくK P I（重要業績評価指標）というものを地域で取っていかなければならない。そういう点においても、先ほど事務局から話があったとおり、入込客数だけではなく、もう少し幅広いK P Iを取っていないといけないと思っていた。

現状、私どもの方で観光地に係る指標というものを取りまとめている。こちらがいわゆる観光庁から各DMOで取るべき指標ということで、既に示されている。これをクリアしていかないと、DMOとしても更新はできないという状況になってきている。

例えばAからLまでであるが、旅行の消費額、それから1人当たりの消費額、延べ宿泊者数、外国人宿泊者数、満足度、それから平準化率、経済波及効果、観光事業者の平均給与額、持続可能な観光に対する住民満足度、リピーター率、それから職員の満足度、安定財源率というようなことで、かなり幅広い数値が求められている。

私どもの方でやるべき部分というのはあるが、一方で消費額や平準化率といったこの計画に連動しながらやっていくものも多々あると考えている。この観光振興計画の目標数値の策定に当たっては、是非観光庁の指標も含めて、私どもの方もアップデートしていかないといけない。今の世の中の観光の指標の流れからすると大きく数字が足りていないというのが、観光振興計画の中の数値的な部分になるかと思うので、この点はDMOも綿密に打ち合わせをさせていただきたいと考えている。

それと別件で、受入態勢の整備が地域として非常に大事かと考えている。その中でも、ガイドの方々の育成や二次交通についてである。今日はいわいの里ガイドの会の方とタクシー組合の方が来ていただいているので、これは非常にありがたいことだと思う。

景観という意味でも、どのように整備していくか、裾野の広い観光業界においては非常に大事な要素になっている。

特に厳美溪に関しては、名勝指定100周年ということもあり、やはり厳美溪の景観、観光資源は素晴らしいが、周遊できる環境であるとか、例えばお金を落としてもら

うような整備ができているかというと思う。

そこが30年前とほぼ変わっていないのではないかと考えていて、もう少し有効に、歴史的な資産という話もあったが、そういった資産を投資しやすい対応、景観の整え方といった、より行政サイドとしてもできることは沢山あると思うので、この辺も是非考えていかなければならないと感じている。

この点をまずお伝えさせていただければと思う。

事務局 目標数値については、今後策定委員会で具体的に検討する。綿密に打ち合わせをしていきたいと思う。

事務局 来年度、厳美渓名勝指定100周年ということで、私達も何ができるかと検討している。市としては、厳美渓というエリアだけに限らず、厳美から須川まで一体で100周年という観光振興を図っていきたいと思っている。

投資しやすくなるような環境整備ということがあったが、厳美地域の方々と懇談をしていると、様々な規制があることがわかった。そういうところを一度、現状把握しなければならないと思っている。

木が繁茂しているとか、草が生い茂っているようなところもあるので、厳美渓を散策してみて、現状を確認することを企画したいと思っている。

その時はお声がけするので是非御参加いただければと思う。

委員 余談になるが、旧一関市のふるさと会の総会に参加した時のことである。ふるさと会に所属している方々が、厳美渓でいうと明確なイメージを持っていて、赤い綺麗な橋が架かっているので、今も昔のままですかと聞かれたのが1つと、その奥に橋が架かっているが、昔は竹橋だったということで、昔はそういうのを自慢していたそう。

昔の厳美渓はどうだったのだろうかという思いを、名勝指定100周年記念で表現できればよいと思う。

委員 令和2年に新型コロナウイルス感染症が発生し、その後2類から5類になり、ようやく今、お客様も来ている。しかし、残念ながら国内の団体旅行というのがなく、それをカバーしているのがインバウンドである。本来であれば国内旅行に対して、インバウンドがプラスになるようであれば全体として良いが、資料5の「5 目標指標と実績」のグラフを見ると、インバウンドは8万人にもなっているが、全体的には200万人回で推移はしているが上がったたり下がったりしている。熊の影響もある話もあったが、そういう現状だ。

委員 今回の計画の中で、改善すべき点のプロモーション活動について、私個人の考えとしては、ここをかなり強化した方がいいかと思う。

狛鼻溪、巖美溪、須川高原温泉、館ヶ森と、各箇所で一生懸命アピールしているが、一関市としてもっとプロモーションすべきではないかと思う。

私の住んでいるところは岩手県とはいえ秋田県のすぐそばなので、観光でいらっしゃる方々にここは秋田県ですかと聞かれることもある。InstagramやYouTubeといったSNSについて、これはただ発信するだけではなく、その後も工夫してやっていただければいいと思う。

あと、一関温泉郷協議会でも、先ほどの巖美溪名勝指定100周年に関して、いろいろ協議しているところで、お力になれば良いと思っている。先ほどの事務局から巖美をきれいにするというお話は、「巖美をきれいにする会」という団体があるので、そういった方々と一緒に何かできれば良いと思った。

委員 祭時の震災遺構についてのガイド依頼が年に数件、中学生や高校生の学びたいという子どもたちから依頼される。

大人ではなく子どもたちが学びたいと訪れるので、毎年言っているが、木が生い茂ってしまった部分を、見えるようにしていただきたい。須川温泉や真湯温泉に行くときにでも見るができるし、紅葉を見るときも通るものであるから、今一度ご検討いただきたい。

事務局 先ほど委員からプロモーションの関係で意見があったが、観光物産課内に地域おこし協力隊がおり、進行中の取組として、毎月1回、TikTokやFacebook、Instagramに、市の観光地を紹介するショートムービーを掲載している。

試行的にやった4月の館ヶ森のときには20万回以上の閲覧があり、5月は花泉のぼたん園を紹介している。あとは、各地域を回ってスポットを紹介していくという取組をしていたので強化していこうと思う。

また、本年度予定している市のポスター作成について、市長からインパクトのあるポスターを作成するよう指示があった。一関市大東町出身のデザイナーさんとの縁で、盛岡にある岩手アートディレクタークラブという団体に委託をし、コンペティションをしていただいて、その中で選ばれたポスターを市で採用しようといったことを想定している。ポスターと併せてメイキングのようなものを動画で作り、それも一緒にPRしていこうと考えている。これまでにないポスター作りをしたいと思っている。

委員 観光というと宣伝にどうしても補助金が行きがちだが、もうバブルの頃から変わっていない古くなった建物を改修するための補助金等はあるのか。

私どもも昨年、JR一関駅のタクシー乗り場の屋根がかなり古くなっていて、改修したいと思いながらも、どうしても予算の関係で厳しいということで、何とか

補助金を得られないだろうかと考えていた。所有者に聞いてみたら、「いや、うちは違う。」と話された。

たらい回しになっていつまで経っても更新できないような状況になってしまい、困っているところが多くあると思う。

YouTubeやインターネットにがっかりランキングといったものが載っているが、こうやってせっかく宣伝をかけて呼んで来ても、実際に見るとがっかりの建物と思われるかねないと思う。やっぱり建物を改修することも大事だと感じた。

所有者が直すべきというのも分かるが、明らかに観光資源に繋がるものであれば全部でなくても、2割、3割負担する取組があってもいいのではないかな。

事務局 観光地の整備について、例えば観光庁で実施していた取組だが、古くなった旅館をそのままにしていると幽霊旅館になってしまうので、取壊しするのにグループを組んで解体の費用を補助するといったハードの補助金等がある。市単独で行っているとなかなか難しいものもあるので、それらを紹介できればと思っている。

観光地の整備といっても、例えば交通に関することは違う省庁で、目的は観光だが、所管は違う省庁ということがあるので、アンテナを高くして、情報収集していきたいと思う。

委員 観光庁のお話が出たが、観光庁のホームページを見るといろいろな補助金がある中で、採択結果を見ると、岩手や特に東北の採択の事例が非常に少ない。新しい計画を作っていく上で、市がそういう観光庁の補助金に手を上げるだとか、民間事業やDMOと一緒に連携・協力していくだとか、今後どういうスタンスで臨まれていくかをお聞きしたい。

事務局 観光庁の補助事業の活用は、先ほど話があったとおりである。ただ、個々の申請というのはなかなか無く、連携して取り組むのが今の事業の体制になっている。

観光庁の補助事業が公募され、そこからいろいろな関係機関と連携して事業を組み立てるとなると、なかなか期間が取れないのが現状である。

このような事業が出たら、このような枠組みでこのような事業をやっていきましょうというのを、あらかじめこちらでも想定して組んでおくというのが必要になってくると思う。

例えば、観光施設の老朽化だとか、あらかじめ観光庁の補助事業が出る前に、一度洗い出して、これをどう更新していったらいいのかというのをみんなで計画して、実際にその公募が始まったときに、このパターンでいきましょうといった、そういう準備が必要だと思っている。

観光事業者の方々にも、来ていただけるような施設に変えていこうという

機運を盛り上げていくということが必要になると思っている。

取組を進めるに当たってやはりできるかどうか、おもてなしセミナーなど、観光客に来ていただいて良い思い出を作って帰っていただくところを、まず皆さんで共有したいと思う。

おもてなしの心とそれからハードの補助金の部分についても、せっかく来ていただいたので楽しんでもらいたいというところをみんなで認識していきたいと考えている。

委員 資料5の3ページ「4 観光振興戦略の評価」の三大フェスティバルについて、私自身も地ビールフェスティバル、バルーンフェスティバルともちフェスティバルが好きで参加した。特にバルーンフェスティバルともちフェスティバルを同日に開催することが、すごく効果があるのではないかと、私自身が客として参加したときも、実行委員として参加したときもすごく感じた。

運営する側としては、大きいイベントの同日開催はいろいろ調整があり大変だと思うが、同日にこの大きなイベントを実施することは、かなり誘客を見込めると思う。

あとは、もち食推進のPRキャラの「もっちーず」が個人的にすごく好きで、街ガチャの中にも、もっちーずのキャラも入れたらすごく良いと思う。私も街ガチャは何回かやったことがあるが、マニアックなものしか出なかった。大宮にブース出展されたときも街ガチャは完売したという実績を伺っており、評判はいいと思うので検討していただきたい。

あとはケロ平という平泉のPRキャラクターがいるので、もしフェスティバル関係で案内をいただければケロ平も是非参加させて、賑やかさをさせていただくので、もし何かあればお声掛けください。

事務局 バルーンフェスティバルともちフェスティバルの同時開催を、一昨年からやっていて、天気の関係もあるが、こちらについては、本当に相乗効果も高いと考えている。引き続き対応していきたいと思っている。

それから、街ガチャについては、一関市観光協会と一緒に取り組んでいる。市内の観光資源とか物産の部分をキーホルダーにしてPRしている。

もっちーずについても、今後前向きに検討させていただきたい。ケロ平くんの賑やかさも大歓迎である。

委員 資料5「3 観光振興戦略のイメージ」の(1)平泉との連携強化による「いちのせき」の発信という件だが、やはり私も平泉との連携は、一関にとってすごく大切だと思っている。資料の黒丸が具体的に取り組んだことということだったと思うが、

もう少し詳しく、どういうことを今年度まで取り組んだのかというのを知りたいというのが1つ。

もう1つは、私の感覚的な話だが、観光ということを考えたときに団体のお客様、個人のお客様、インバウンドに大別されると思うが、個人の方だと定点とか1か所の観光地とか観光施設だと選択肢がある中でしか選ばないが、3つくらいの魅力的な観光素材があると、「じゃあ、今日はここに行こうか」といった感じに足が向くと思う。

点を線にして、エリアとして魅力付けするのが大事だと思っており、予算の関係もあるかと思うが、今年度はこのエリアの魅力付けをしていきたいと思いますというエリアをステップで魅力付けしていくのも、いいのではないかと個人的には感じた。

事務局 平泉との連携強化ということだが、世界遺産連携推進実行委員会というのがあり、平泉を中心とした連携をツアーの造成に取り組んでいるところである。その実績の状況などは資料中に出てくるが、資料に出ていない部分としては、現在台湾からのインバウンド誘客ということで、台湾からのお客様を市でも御案内しているところ、そこでは必ず中尊寺に寄って紹介している。

平泉町と連携しながら、中尊寺だけではなく毛越寺や達谷窟毘沙門堂などを紹介し、厳美溪の周遊にもつなげてまいる。

団体から個人と色々なパターンがあるということで、個人の方が選択するところがあったらいいのではないかということはそのとおりだと思う。台湾の方々といういろいろお話しさせていただいていると、これからはFIT（フィット）、いわゆる個人旅行の方にシフトしていくということをお聞きしている。

委員からも話が出たが、今までは観光入込客数というお客さんの数を指標にしてきたが、実際に実が入る観光消費額にも気をつけていかなければいけないと思っている。

個人の観光客の方にも消費していただける、そういう点で選んでいただけるような観光地の紹介をしていきたいと思う。

今回の観光振興計画の中ではあまりこの戦略が無かったが、資料5の3ページにエリアを厳美エリアそれから室根山エリア、館ヶ森エリアというように記載した。

1つ目の厳美から栗駒までのエリアは、観光資源がすごくあるので、掘り起こしと磨き上げを考えていきたいと思っている。それから室根山エリアも色々あるし、館ヶ森エリアについても、アーク館ヶ森やサファリパークなどがあるので、エリアの中でいろいろ周遊できることを観光振興計画の中に位置付けていきたいと思っている。このエリアが一関全体の周遊につながればいいと思っている。

余談にはなるが、台湾の方々が、4月から毎月いらっしゃり、来月以降も10月までお越しになる。これまで視察のような形で来ていただいていたものが、だんだん観光のような形で来ていただくようになり、1団体20人くらいで来ていただいている。9月、10月は30人ずつ3回来ていただき計100人くらい来る予定になっていて、台湾の方とは交流が進んでいると思う。

そういう中で、色々な嗜好というか、私たちがなかなか気付かない部分もあるが、どういう視点で何を楽しまれるのかという辺りは、少し勉強していかなければいけない。一例を挙げると、セカンドストリートという中古屋があるが、台湾にもあるそうだ。日本のセカンドストリートは台湾にあるのとは全然違って、中古だが品物がすごく良く、それでこの値段で買えるとは、もう信じられないということで、1人10万円ぐらいずつ消費されて帰られた。消費動向やニーズをきちんと掴んで、満足できるようなお土産の開発等をやっていないといけないと感じている。

委員 この前、台湾の事業者から、宿泊の際、これまでは花巻温泉と仙台を勧めていたが、ただどちらも高く大変であり、台湾の中間層の方も岩手に行きたいと思っているようだが、花巻温泉だけではなく、どこか紹介してくれということを一関市観光協会が言われたようだ。

それで、これはありがたいと思って、一関温泉郷につなぎ、20人ぐらいのお客様ということで紹介をした。しかし、台湾では、お風呂にみんなで入るという文化はあまり無いそうで、個々の部屋にお風呂がなければだめだそうだ。一関温泉郷に、個室のプライベートのお風呂があるわけではない。こういった現状を踏まえ、支援策等はないのか。

新型コロナウイルス感染症流行前は、お客さんがインバウンドでお越しになるときに、それに対応しないといけないと県に要請して、看板やトイレの改修についても補助をいただいた。ただ、令和2年に新型コロナウイルス感染症が発生したことによって、一時経営難になった。そういう支援策も今は止まっているので、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたあとの受入れについても、そういった支援をお願いしたい。

また、ビッグデータの話もあったが、一関市観光協会としても、一関商工会議所とビッグデータの勉強をして一時盛り上がった。しかし、盛り上がってそれで終わりである。私も会員が使いこなせなかった。せっかく一関商工会議所でそういう能力がありながらも、普及しなかった。関係する事業者がビッグデータを使えるように検討していかなければならないと思う。

一ノ関駅から須川までのところは、一関にとって観光の目玉である。先ほど事務

局がおっしゃったように、巖美溪が名勝指定100周年だが、そこにポイントを置くのではなく、国道342号に関して100周年祭ということについて大賛成である。やはり須川無くして一関の観光は語れないので、そのようにお願いしたいと思う。

今、一関市観光協会では人材がなかなか確保できない課題がある。インバウンドが主流であるので、それを迎え入れる職員も、おもてなしをするだけでなく、英語や中国語を話せる人が1人は欲しいと思っている。

あとは、二次交通について、せっかく一関は、三陸、須川、平泉の玄関、つまり岩手県の玄関であるのに、一関に高速と新幹線が止まっても、その先に行く方法が無い。タクシーだけ。これを解決しないと、なかなかお客様にみんな回っていただくというのは困難だと思う。

もう1つ、この前一関温泉郷の総会で、一関は発信が遅れているという話があった。これだけの事業をやっているが、それを理解していただけるようなプロモーションが弱いと感じる。

観光振興計画というと詳細な事業を明確にしているわけではなく、その方向性を示す計画である。そこを理解してやらないと、この事業が載っていない、この事業がどうなっているのかとなるが、方向性の中の事業というのはまた別立てになる。

(2) 次期（R 9～R13）一関市観光振興計画の策定スケジュールについて

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 商工観光部も、部の名前が変わられたということもあって、やはり物産は観光と連動する部分が非常にあると思う。お考えがあれば後日教えていただきたい。

委員 一関市観光協会のことになるが、観光案内所も、地域密着型の案内所ということで、車社会に準じ、道の駅が数多くなっていることから、道の駅を地元の観光案内所の拠点とするのはどうか。将来の方向性として考えていただければと思う。

11 担当課 商工観光部観光物産課